

支援センター み ら い

平成21年度事業報告書

はじめに

支援センターみらいは相談支援事業と地域生活支援を中心に在宅支援事業を展開している。

相談支援事業に関しては、豊中市から生活アシスタント事業の委託を受け相談支援を随時実施してきた。相談ケースは年々増加傾向にあり今年度は特に大阪府障害者自立サポートセンターから手帳の切り替え時の面接で福祉サービスを利用していない事が判明した場合、直接紹介されてくるケースが目立った。主な相談内容は障害基礎年金の受給申請や日中活動の場の情報、ケアホーム・グループホームなどの生活の場の情報、ホームヘルプ・ガイドヘルプの事業者情報等、多岐に渡る。平成20年度に比べると相談ケースが倍近く増加している。豊中市におけるアシスタント事業の必要性に加え、相談内容と支援の関わりで本事業の範囲を超えているように感じるが、知的障害者を対象とした地域活動支援センターや豊中市相談支援機関が豊中市には無いことを考えると更に相談ケースは増加するものとする。

次に地域生活支援においてはケアホーム・グループホームのバックアップ、日中支援として音楽レクリエーション事業などを実施してきた。

グループホーム・ケアホームについては、現在、9名の方が生活を営まれている。平成22年度4月には予てからの念願であった女性ホームに加え男性ホーム立ち上げに向けて準備を進めているところである。またガイドヘルプ・ホームヘルプ事業所の開設に向けての準備も行なってきた。

音楽レクリエーション事業は音楽療法士3名による集団音楽レクリエーションを毎月第2土曜日に実施した。毎回20名前後の参加者を得て実施をした。

1. 事業所の運営

- | | |
|---------|--|
| (1) 所在地 | 大阪府豊中市勝部2-19-3 授産施設みらい内 |
| (2) 職員 | 管理者 (1 (兼務))・サービス管理責任者 (1 (兼務))
生活支援ワーカー (1 (兼務))・就労支援ワーカー (1 (兼務))
生活支援員 (4 (内2名兼務))・世話人 (3 (内1名兼務))
事務員 (1 (兼務)) |
| (3) その他 | 大阪府指定相談事業所 (平成20年7月1日指定)
事業所指定番号 2734000041
栗ヶ丘ホーム (共同生活介護・共同生活援助)
事業所指定番号 2724000035
*栗ヶ丘ホーム (定員4名 男性3名 女性1名)
*末広ホーム (定員5名 男性5名) |

2. 業務内容

- (1) 在宅及び夜間支援

- ①ケアホーム・グループホームのバックアップ
栗ヶ丘ホーム、末広ホームの余暇支援や世話人のヘルプで夜間支援に入る。
定期巡回、保護者会支援、生活スキルアップ支援、余暇支援、その他
- ②新規立ち上げのケアホーム・グループホームへの支援
男性ホームと女性ホーム立ち上げに向けての、調査、物件探し、指定に向けての大阪府への事前協議や勉強会の実施を行なった。
- ③スポーツレクリエーション事業豊中市生活アシスタント事業
参加人数 276名（新規登録者5名）（豊中市委託事業）
豊中市全域から障害種別、年齢を問わず相談を受ける。上半期の特徴として、大阪府自立サポートセンターからの療育手帳更新時に発覚した無年金者に対する、障害基礎年金受給手続きに関する依頼が多かった。

(2) 相談支援事業業務

- ①相談支援事業（ケアマネジメント） 現在4ケースの依頼を受けた。
- ②相談支援事業（豊中市生活アシスタント事業（豊中市委託事業）
開所日数=247日 相談ケース=473件 相談延べ人数=1,323名
(集団相談含む)
内訳 本人=241名 親・家族=630名 支援者等=453名
内容 就労関係=17件 施設利用関係=139件 日中活動=103件
その他=212件
- ③豊中市障害相談支援ネットワーク「えん」への参画
月一度の定例会議に参加し相談業務やケースについての情報交換を行った。
- ④豊中市障がい者ケアホーム・グループホーム事業所連絡会への参画
隔月の定例会で市内に事業所を営む事業者で情報交換を行なった。

(3) 法人運営の他の施設との連携及び協力

- ①日中一時支援事業のコーディネートと実施（私的契約）
第2みらい利用者で同事業の利用を希望する者に対して随時実施している。
- ②自活訓練事業のコーディネートと実施（私的契約）
みらい・第2みらいの利用者で希望する者を対象に随時実施してきた。特にケアホーム利用希望者については連泊等も取り入れホーム利用に合わせた取り組みを実施してきた。

(4) 本人活動支援

- ①就労支援（ジョブライフサポーター）委託事業
登録型ジョブライフサポーターとして2名を登録し4名の支援対象者に述べ8回のジョブ支援に入った。
- ②余暇に関する情報提供や企画
土曜や日曜などの開所も含めての日中活動サービスのない時間の支援
ホーム利用者に対して、概ね月1回、外出支援やホーム内での調理実習など

の支援を行なった。

(5) 啓発・宣伝・渉外業務

①支援対象者や支援者に向けてスキルアップ講座や研修及び研究

現場ゆえに見えてくる問題、課題の分析やニーズの掘り起こしを行なった。

1) 第1弾「成年後見制度を考える」オープン講座を実施した。

平成21年7月29日 ひまわり 26名の参加

2) 第2弾「成年後見制度を考える」オープン講座を実施した。

平成21年12月3日 ひまわり 30名の参加

3) 第3弾「就労に向けてのステップ」オープン講座を実施した。

平成22年3月3日 ひまわり 23名の参加

平成21年度

栗ヶ丘ホーム（共同生活介護）事業報告書

（栗ヶ丘ホーム、末広ホーム）

はじめに

年度当初から、栗ヶ丘、末広に続く第3、第4のホーム開設準備を行なってきた。必要に応じてご家族と説明会を実施し進捗状況の説明を随時行なってきた。予てより希望のあった女性ホームも3月末には契約の締結も済ませ平成22年度4月開所に向けて準備も終えることができた。男性ホームの候補地も決定し後は本契約を済ませるところまで進めることができた。

今年度は各地で起きている障害者や老人が利用する施設での火災による死亡事故で所轄消防署や行政機関から通知がくる中、当ホームにおいても事故防止のためホーム会議や文章により周知徹底を行なった。また、所轄消防署の立ち入り検査で指摘を受けた、カーテンやカーペット類についても速やかに防災処理がされている物に入れ替えを行なった。

特に末広ホームにおいては利用者の障害程度区分4以上の方が全体の8割を超えるので消防法に従い、自動火災通報装置と自動火災報知機の設置も併せて行った。

ホームと職場（日中活動の場）の往復で、単調な日常生活を防ぐためマンネリ化の防止に努めた。特に余暇支援や生活スキルの向上を目指した支援や従事スタッフには利用者への虐待について資料配布や巡回指導、スタッフ会議に周知を行い利用者に安全で安心してホーム利用が出来るよう務めた。

今後、ホーム利用者の加齢に伴う健康の維持管理や更にホームが必要が増えてくる中、連携、支援体制を再構築していく必要を強く感じる。

1. 事業所の運営

栗ヶ丘ホーム（共同生活介護）

- (1) 所在地 大阪府豊中市上野東
- (2) 定員 4名（現員4名）
- (3) 職員 2名（世話人、生活支援員）

バックアップ施設として（管理者（兼務）サービス提供責任者）

末広ホーム（共同生活介護）

- (1) 所在地 大阪府豊中市末広町
- (2) 定員 5名（現員5名）
- (3) 職員 2名（世話人、生活支援員）

バックアップ施設として（管理者（兼務）サービス提供責任者）

2. 職員の職務内容

支援体制として、管理者、サービス管理責任者、世話人、生活支援員の職員配置を行いそれぞれの業務を別表1のとおり明確にし、利用者にとってきめ細かい支援の充実に努めてきた。

(別表1)

職名	職務の内容
管理者(兼務)	ホーム運営に関する全般の把握に務め、サービス提供管理者の相談に応じる。
サービス管理責任者	利用者の生活支援等の日常生活に対しての個別支援計画を作成しそれに基づき世話人、生活支援員に具体的指示を出す。
世話人	利用者の直接介護支援以外の業務を行う。(主務としては、買い物や調理及び事業所の小口現金の管理等)
生活支援員	サービス管理責任者の作成した個別支援計画に基づき生活全般の直接介護支援に当たる。

3. 支援の内容

生活・余暇の支援

基本的な生活習慣を維持するよう声掛けを行った。また、自らの身辺処理が難しい場合にはその必要に応じて援助を行い、またそのスキルを体得できるよう支援してきた。

特に加齢に伴う行動範囲や移動の問題、また食生活、健康面においても細心の注意が必要となってきた。食生活面では、生活習慣病等、栄養バランスに十分配慮しつつ季節感のある食事や食後のデザート、コーヒー等も提供した。また普段とは違ったイベント食や行事食等も取り入れ食生活に彩を添え食に対する楽しみが持てるようサービスの提供に努めた。

余暇・スキルアップ支援では、個別支援計画に基づき、関係機関と連携を図り生活がマンネリ化しないよう情報提供に努めた。またガイドヘルパー制度を活用して公共の娯楽施設や行楽地などへの日帰り旅行、他の団体が企画したイベントにも積極的に参加し、生活の質の向上、ゆとりと潤いのある余暇支援に努めた。

スキルアップ支援では、利用者主体で食後のミーティングを行い当番制や快適な生活を行うための話し合いを行ってきた。また20年度は調理実習の回数や種類も増やし実施するなど、自活に向けての支援を行ってきた。

主な余暇支援

がんばる会(親の会主催)への参加、誕生日会、ボウリング、カラオケ、映画鑑賞、エアロビクス、お花見等 主に利用者の休みの土曜日を利用して実施した。

主なスキルアップ支援

話し合い等を通じての対人関係や協調性を養う支援（適宜）。掃除、洗濯物の整理、整容、身支度等の体得支援（毎日）。調理実習として、たこ焼きやお好み焼きを作った。

保護者支援と連携

毎月定例で月初にホームにおいて実施した。

普段の生活状況や健康状態を生活支援員や世話人から報告をすることにより、保護者に対して具体的な生活状況の情報提供に務めることができた。

4. 職員研修

職員のスキルアップのため、必要に応じて研修に参加した。今年度も保健所が実施する予防研修会や消防署が実施する避難訓練に参加し食の安全、人命の尊さを学習した。

少人数とはいえ集団生活なので、特に感染症や食中毒について細心の注意を払い普段の生活からその予防に努めてきた。

5. 危機管理支援

定期的に避難訓練などの実施を行い、有事の対処方法を体得できるよう支援した。

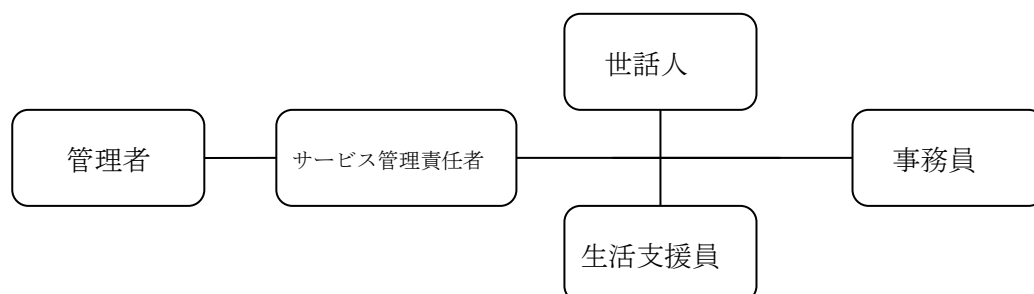
またバックアップ施設、近隣住民、警察、消防、病院など公共機関とも連携を図り有事の危機回避の支援体制を整えた。

利用者に対しては、火災時と地震に対しての非難訓練を実施した。

また支援者に対しては、その避難誘導訓練を同時に行った。消防署が実施した消防訓練にも参加し有事に備えた。

設備面では、消火器の再点検やガス漏れ警報機、火災探知機の再点検を行い必要に応じて、購入や修理を行った。

6. 人的支援体制表



7. 設備面における充実強化

消防法に従い、自動火災通報装置の設置や防災カーテンやカーペットの入れ替えを行った。

8. 利用者の状況

栗ヶ丘ホーム

(1) 月間実稼動日数 (日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
営業日	25	16	26	26	25	24	26	23	27	23	25	31	297
男性	75	48	76	77	75	72	78	61	80	68	75	91	876
女性	25	16	25	22	22	23	25	23	23	23	24	26	277
合計	100	64	101	99	97	95	103	84	103	91	99	117	1,153

(2) 障害程度 (平成22年3月31日現在)

程度	療育手帳	程度	身体障害	程度	障害程度区分	程度	障害程度区分
A	3	3級	2	A	1	2	1
B1				B	2	3	
B2	1			C	1	4	3
						5	

末広ホーム

(1) 月間実稼動日数 (日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
営業日	26	17	26	27	26	26	27	24	26	24	24	27	300
男性	104	68	101	103	85	77	71	71	81	66	86	102	1,015
女性													
合計	104	68	101	103	85	77	71	71	81	66	86	102	1,015

(2) 障害程度 (平成22年3月31日現在)

程度	療育手帳	程度	身体障害	程度	障害程度区分	程度	認定区分
A	3	3級	2	A	5	3	0
B1				B		4	3
B2				C		5	1
非該当	2					6	1